



西眼科だより 第11巻1号

(季刊誌)

2009年1月発行

編集責任者：倉橋美雪

Nishi Eye Hospital

西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26 TEL: 06-6981-1132

〈ホームページ〉<http://www.nishi-ganka.or.jp> 〈e-mail〉office@nishi-ganka.or.jp



2009年 西眼科病院の展望

院長 西 起史

西眼科病院は、眼科の専門病院として

『患者さんの求めに応じ満足のいく医療を提供すること』の基本理念を柱とし、「常に患者さんに満足して頂けるサービス」と「より高いレベルの医療を提供する」ことを念頭におき、職員一同積極的に取り組んでおります。



その一環として過去10年「コンピューターネットワークによる業務の合理化」は必須と考え、これに取り組んで参りました。その結果、1999年に導入した「再診予定制」はほぼ定着。2006年5月には「電子カルテ」を導入しました。現在では、電子カルテもほぼ定着しつつありますが、「医師や看護師はコンピューターの画面ばかり見て、患者さんの顔を見ない」と言う、電子カルテ特有の共通した問題が生じております。この問題は電子カルテ・システムの不完全さが大きな要因で「画面構成やソフトの改善が」この問題の(解決の)鍵を握っていると考え、引き続き改善に取り組んでおります。

また眼科医療の進歩は日進月歩です。以下に現時点での「新・特殊治療」を表記致しますのでご参考にしてください。

白内障術後の眼内レンズでは「多焦点眼内レンズ」が認可されました。このレンズはまだ完全なものではありませんが、注意して使用すれば一部の患者さんには「福音」となり得ます。

近視矯正手術のレーシックでは、昨年10月に波面センサーを利用した新しい方法が認可されました。この技術は「不正乱視矯正」に威力を発揮しますので、今後取り入れて行く予定です。

加齢性黄斑変性症は、全世界で増加傾向にあります。充分に満足できる治療法がありませんでした。しかし、PDT療法（光線力学療法）が3年前に導入されたのに始まり、昨年10月には分子生物学レベルの「薬剤」が認可され、またこの2月にも新しい薬剤が認可されようとしております。これにより、加齢性黄斑変性症に、更に「効果的な治療法」が加わりました。

角膜移植術では、これまで「角膜全体」を交換しておりましたが、ここ数年の間、「角膜の傷んだ部分」だけを取り替える、いわゆる「角膜内皮移植術」が登場しました。私達の病院でも昨年からはじめ、良い結果を得ております。

硝子体手術では、使用する器具が20ゲージ（0.9mm。眼内に挿入する器具の太さを表す）から23ゲージ（0.65mm）や25ゲージ（0.5mm）等のより細い器具の「無縫合手術」へと移行しております。世界では現在23ゲージが主流ですが、私達の病院でも23ゲージがメインになっております。

炭酸ガスレーザーを使用する手技を導入しました。眼瞼下垂などで使用し、切開と同時に「止血」も行います。このため、出血の多い手術がより容易に行えるようになりました。

このように私達は専門病院として常に「新しい知識の集約」や「技術の取得」に勤めております。今後も医師、看護師、検査員、受付を始め職員一同は、「患者さんが光を取り戻せた」ことを最大の喜びとして、本年も「患者さん本位の病院」を目指しご期待に添えるよう、引き続き「医療サービスの充実」に努力して参ります。また、より良い病院作りに向け、何かお気付きの点がございましたら御遠慮なくお申し越してください。末尾になりましたが、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

